



夢のバンドマン

小学6年生の時、とある近くのライブハウスに行ったのが、全ての始まりでした。そこで見た光景は、何かを訴えかけようと全力で演奏しているバンドマンの姿でした。

演奏が終わると至って自然体の出演者の皆さんに、なんとも言えない感情を覚え

ました。その日からひたすら演奏の練習を重ね、半年後にそのライブハウスで念願の初ライブを行いました。もう感無量。最高の一言に尽きます。高校に入学してからはさまざまな場所で演奏するようになり、地元の祭りやライブハウス、県外でのライブ、そして高校3年生の時には、四国最



日開野町
丸山 達郎さん

大級のホール・アステイ徳島でも演奏させてもらうことができました。今年20歳になりましたが、8年間バンド生活をきて、いつの間にか音楽が生活の一部となり、お客さんから拍手や笑顔をもらい、励まされ、少しずつではありますが、あの日のバンドマンに近づいているのかなと思います。だから僕たち人間は、死ぬまで何かの目標に向かって全力で挑戦

し続けなければなりません。これからも僕は全力で歌います。まずは、自分が育つた徳島を最高に盛り上げていきたいです。ライブハウスに一度遊びに来てみてください。それだけで、皆さんの明日も何かが変わるかもしれません。僕のように。

次は、柳島町の酒井勇也さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

佳作

近藤美智子

佳作

宮崎喜美子

佳作

髪の毛の先より汗の垂るる日に芙蓉咲き初む

佳作

近藤 千代

佳作

ヒマワリの炎暑続きて葉を垂らす夕べ早きに

佳作

森岡 圭子

佳作

若き日の白衣に挿したままのペン遠近法の奥

佳作

清水 利子

佳作

落ちそうで落ちずに星を生み続く線香花火に

佳作

青木 恭子

佳作

未熟児で生まれし曾孫ようやくに大きくなり

佳作

小田 和子

佳作

夢繋ぎりレール四人は東京へ感動我らに五輪終

俳句

阿南市俳句連合会選

鳥海 勇二

友誘い花見をかねたクラス会

戸を出でて初音に出会う朝かな

瀬藤 豊子

一と歛にひと腰のぼし芋植うる

久米 千草

春満月まわりの星はまたたかず

淡島 春海

春めくや一人芝居のホール満つ

庄野 年美

なつかしき人にも逢ひし梅の谷

数藤 耕風

国会の行きつ戻りつ春炬燵

表原 清美

絵手紙の小さき落款路の臺

神野千鶴子

四つ手網沈める竿へ風光る

浜田百合子

天守なき伊予水軍の風光る

大西 里美

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

用意した言葉の裏にある秘密

二階千代美

胸の内昭和の風が生きている

田上 鶴子

独り居で喋る家電と会話する

武田 敏子

代役はないわたくしを演じきる

鈴木レイ子

延命は無用と書いて手術する

酒本 耕造